

I 総説

第1部 宮崎県の概況

第1章 環境にかかわる県の概況

1 地勢・気候

本県は、九州の南東部に位置し、東は太平洋に面しています。

総面積は約7,735km²で国土の約2%に当たり、全国14番目の広さですが、山岳地帯が多く、これらを水源に五ヶ瀬川、耳川、小丸川、一ツ瀬川、大淀川などの河川が太平洋にそそぎ、豊富な水資源をもたらしています。

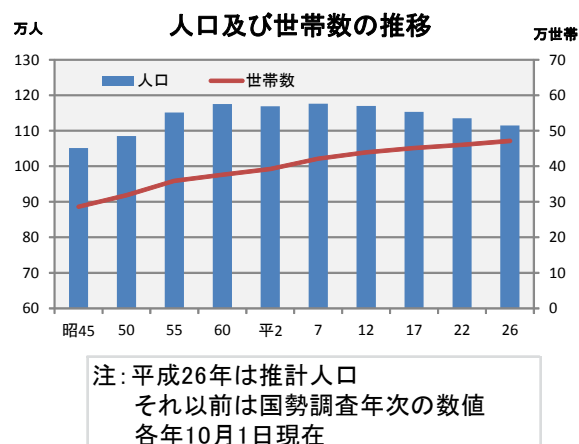
気候は、平成25年の日照時間は2,411時間で全国第2位となっています。また、昭和56年から平成22年まで30年間の平年値では、快晴日数53日、降水量2,509mmが全国第2位となっており、日照時間2,116時間、平均気温17.4℃が第3位となっています。

2 人口・世帯数

平成26年10月1日現在の本県の推計人口は、1,114,775人（男523,557人、女591,218人）です。

昭和45年以降の本県人口の推移をみると、47年から60年まで毎年増加を続け、特に49年から55年にかけては毎年1%台の大きな増加を示しました。その後、平成8年までは緩やかに増減を繰り返しましたが、9年以降、減少傾向が続いています。26年は前年同月比0.52%（5,875人）減少しています。

一方、世帯数（平成26年10月1日現在）は、471,213世帯で、前年同月比0.39%（1,827世帯）の増加となりました。



3 産業

本県の産業構造をみると、就業者数、総生産額とも第3次産業の割合が高いものの、全国的には、産業全体に占める第1次産業の割合が高い県となっています。

産業別県内総生産の比較（平成24年度）

産業	県内総生産額（億円）	割合（%）
第1次産業	1,502	4.3
第2次産業	7,365	20.9
第3次産業	26,168	74.1

（注）輸入品に課される税・関税等が加算控除されていないため、構成比の合計は100%にはなりません。

4 土地利用

本県の土地利用区分は、次表のとおり、森林が県土の約76%を占め、次いで農用地が約9%となっています。

土地利用の推移についてみると、農用地が減少傾向にある一方で、道路・宅地等が増加しています。

県土の利用区分別面積（基準日：10月1日）

（単位：ha、%）

区 分	22年	23年	24年	25年	
	面積	面積	面積	面積	構成比
農 地（旧農用地）	69,557	69,250	68,900	68,500	8.9
（旧農地）	(69,300)	(69,000)	—	—	—
（旧採草放牧地）※	(257)	(250)	—	—	—
森 林	589,895	590,034	588,590	589,600	76.2
原 野 等 ※	2,991	2,984	1,832	1,767	0.2
水面・河川・水路	22,700	22,733	22,736	22,739	2.9
道 路	25,105	25,235	25,393	25,784	3.3
宅 地	26,556	26,636	26,703	26,926	3.5
（住 宅 地）	(17,059)	17,097	17,129	17,296	(2.2)
（工 業 用 地）	(1,383)	1,314	1,258	1,224	(0.2)
（その他の宅地）	(8,114)	8,225	8,316	8,406	(1.1)
そ の 他	36,679	36,727	39,445	38,283	4.9
合 計	773,483	773,599	773,599	773,599	100.0

※ 平成24年度調査（平成23年数値）から採草放牧地の区分が無くなり、原野等に合算されることとなった。また、面積算出のための根拠となる統計が変わったため、原野等の値も大きく減となっている。

5 道路交通

本県の県内道路網は、高速自動車国道3路線、一般国道18路線（直轄分2路線、県管理分16路線）、主要地方道48路線、一般県道146路線、市町村道33,332路線の総計33,547路線に及び、これらの実延長は20,146kmです。

6 エネルギー

県内の電力需給状況は、発生電力量が消費電力量の半分程度となっている状態が続いていますが、平成24年7月に開始された固定価格買取制度によって、太陽光発電を中心とした再生可能エネルギーの導入が進んでいます。